

令和5年度事業報告

令和5年度は、5月からコロナが5類に移行し、ようやく学校に落ち着きが戻ってまいりました。郡山学院高等専修学校(以下、学院と称す)は、新校舎での入学式・始業式で幕を開け、新入生を含む生徒たちも快適な学校生活を満喫しております。

それでは、本学の事業について要点のみ説明します。

<教学>の面の「入り口」です。ケイセンビジネス公務員カレッジ(以下、ケイセンと称す)は学生募集が、5年連続の前年度割れとなってしまう、平成と令和を通して最低の入学者数を更新してしまいました。このことが、法人全体の不振となっており、最重要課題として打開策を講じましたが改善されませんでした。抜本的な対策を講じてまいります。学院は、9年連続での定員確保はかないませんでした、充足率93%と健闘しました。

次に「中身」ですが、ケイセンは昨年度に続き公務員試験合格実績で、好成績を上げることができました。検定試験合格実績は、補習等を講じておりますが目標には達していません。38年連続となる恒例の献血は、前年度より43名減少しましたが110名に協力してもらいました。防災士養成講座では、4期生が27名合格し、累計で136名を輩出しました。献血協力や猪苗代湖の環境浄化などの社会貢献活動により、郡山市から「まちづくりハーモニー賞」を受賞しました。加えて、学生の選挙啓発サポーター活動により県選挙管理委員会より感謝状も授与されました。学院は12月に待望の生徒会が発足し、最初の活動として能登地震被災者へ募金活動を行いました。今後の更なる活躍が期待されます。検定試験合格では前年とほぼ同じ成績でした。全国簿記競技大会は、コロナ禍を考慮し個人戦のみの実施でしたが、3位の成績でした。献血は、前年度同様100名を超えました。

「出口」では、ケイセンの総合ビジネス学科が、11年連続の就職内定率100%を達成しました。また、卒業式までに全員の進路を決定するとの課題は、進路対策会議の開催により進路決定率は昨年を上回り、3月末にはほぼ解決できました。学院は、10年連続で進学率・就職率ともに100%を達成しました。

<経営>の面では、学生・生徒の学納金収入が減少し続けております。新校舎建設費用の自己資金負担等により、剰余金が今年度も減少となってしまいました。

以上のことを踏まえ、ケイセンと学院が全力を挙げ、改革・改善を進め次年度につなげます。

以下は、令和5年度に本学が行った具体的な事業の説明となります。